

## 謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

渡邊 裕 氏	宇部市医師会	7月20日	享年 94
三井 健史 氏	下関市医師会	7月24日	享年 68
村田 雄三郎 氏	徳山医師会	8月7日	享年 95

## 編集後記

最近、本屋に行くとき「仕事について」の本が平積みで、ずらっと並んでいました。

現在、世の中に3万種あると言われていた仕事自体についても興味がありますが、AI化などで20～30年後にはガラッと変わるであろう将来の仕事についても知りたい（子供世代で主流になる仕事って何だろう）、その辺のことも書いてあるのかな、と思って、数冊ほど手に取ってみました。まずは、池上 彰さんの『なぜ僕らは働くのか』あたりから読んでみようかしら。

ところで、皆さんは、現在の仕事などについて、どのような過程で選択されたのでしょうか。

私の場合は、実家が開業しており、また、医療系の仕事を選択している親族が多かったため、大学受験の時、大枠として「なんとなく」医学部を選択しました。大学在学中は、消化器内科が一番面白かったので、卒後は友人の勧めにより、消化器を中心とした内科と外科が強い都立系の病院で研修しました。消化器内科で研修した際、先輩たちは、上下部消化管内視鏡検査や造影検査、腹部超音波検査や外来、入院業務などを楽しそうにこなしており、他科、特に病理科との連携もよく、その合間を縫って対外的仕事である論文作成、学会発表をあたりまえのように淡々とこなしていました。かといって異常に遅い時間まで仕事をしているわけでもなく、今でいうワークライフバランスも当時としては比較的ましな方に見えたので、先ほどの都立系病院で研修後、常勤医として合計20年勤務しました（その後、実家を継いで今に至っています）。

仕事の本の話にもどります。読み始めてみると、仕事以外にもいろいろなことが書かれていました。たとえば、人生の3大出費は「教育」「住宅」「老後」で、特に老後は、人生100年で65歳で退職した場合、残り35年で年間318万×35年＝1億1,130万円もかかるそうです（総務省「家計調査年報（平成30年）」の「高齢夫婦無職世帯」参照）。

ほんとかな、と思うほどとんでもない額ですね。将来が不安になります。

次に、最も興味がある、医療関係の仕事については、どう書かれているのか見てみよう（・・・以下続く）。

（理事 藤原 崇）